

2025年7月3日

ミス・パリ・ビューティ専門学校 名古屋校 学校関係者評価報告書

ミス・パリ・ビューティ専門学校 名古屋校

(2025年4月校名変更：旧校名 ミス・パリ エステティック専門学校名古屋校)

校長 青山 卓史

学校法人ミスパリ学園 ミス・パリ・ビューティ専門学校 名古屋校（2025年4月校名変更：旧校名 ミス・パリ エステティック専門学校名古屋校）学校関係者評価委員会は、2024年度（令和6年度）自己評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施いたしましたので、以下のとおり報告いたします。

- 開催日時：2025年6月24日（火） 13:00～15:30
- 場所：ミス・パリ・ビューティ専門学校 名古屋校（オンライン）
- 参加者

学校関係者評価委員

平山 浩篤	(学校法人ミスパリ学園理事、評議員)
須賀谷 映子	(NPO法人日本スパ・ウェルネス協会 教育委員長) (学校法人ミスパリ学園評議員)
越川 治枝	(株式会社シェイプアップハウス 教育部 部長)
東 千晶	(株式会社シェイプアップハウス 人事部 部長)
事務局 青山 卓史	(ミス・パリ・ビューティ専門学校 名古屋校 校長)
森島 和美	(ミス・パリ・ビューティ専門学校 名古屋校 課長)
立野 舞子	(ミス・パリ・ビューティ専門学校 名古屋校 教育課)

4. 基準項目ごとの学校関係者評価・意見

（1）学生アンケート結果における改善点

【現状・取り組み】

本校では2024年度に「授業アンケート」を前期・後期の年2回実施した。技術・理論ともに前年度より評価が向上した。主な取り組みおよびその成果は以下のとおりである。

【実施方法】

全在校生を対象とした無記名方式。10項目について5段階評価及び自由記述によるコメントを回収。

【実施時期】

2024年7月1日（前期）、2025年2月28日（後期）

【分析】

・講師配置の見直し

サロン現場経験の豊富な講師を理論科目にも配置することで、実務に基づいた授業内容が学生の理解促進に寄与した。

・習熟度に応じた授業体制の構築

ベッド配置やグルーピングの工夫により、学生個々の習熟度に対応した学習支援体制を構築した。

・ビューティキャンプの実施

放課後の練習会や質問会の実施により、個別対応を強化。疑問点の早期解消が学生の不安軽減および学習意欲の向上につながった。

- ・電子黒板の導入

板書中心の授業から、動画や図解などを活用した視覚的な授業に移行。特に構造やプロセスを扱う理論授業において理解が深まった。学生からは「見やすくなった」「動画や図がわかりやすい」等の肯定的な意見が多数寄せられた。

- ・講師間の情報共有の強化

カウンセリングシートの添削を通じ、学生の理解度に応じたレベル別指導を実施。講師間で指導内容を共有することで、理論科目全体の理解度の底上げが図られた。

(2) 自己評価点の理由

【改善項目】

- ・「授業内容・指導方法が学生の理解度に応じて工夫されているか」

ICT 機器の活用に加え、板書との併用や授業後の質問会の実施など、学習スタイルに応じた授業展開を検討・実施している。

- ・「評価結果に基づく教員への指導・面談の実施」

フィードバックの透明性を高めるため、今後は授業評価に加え、資格取得率や出欠席状況などのデータも活用した指導体制の整備に努める。

- ・「資格取得目標の設定および結果の検証」

従来の実績集計に加え、年度別・中長期的な成果分析が可能となるよう、デジタル管理体制の構築および PDCA サイクルの強化に取り組む。

【評価項目】

- ・「年度内の目標評価および次年度への活用」

教職員面談を通じ、各自の目標と達成度を確認し、次年度への課題と対策を共有する体制を整えた。

- ・「学生の心身面の健康管理体制」

スクールカウンセラーの配置や、長期欠席とみなす日数基準の明確化などにより、早期対応・フォローアップ体制を構築した。

- ・「学生募集計画とその成果」

募集状況を可視化し、職員間で日々情報共有を行うことで、教職員全体の意識統一と計画的な広報活動の推進につなげている。

《委員より》

資格取得に関する項目を含め、今後はより一層データに基づいた運営と継続的な改善を期待する。

5. 総括

本年度の学校目標「思いやりの心を育てる学び」のもと、教職員一人ひとりが“自分のため”から“誰かのため”への視点転換を実践し、学生の内面的成長と専門性の育成に取り組んでいる。今後も本校が目指す「美しく聰明で品格あるプロフェッショナル」の育成に向けて、組織一体となって取り組んでいく。

以上